

第13回 ダニと疾患のインターフェースに関するセミナー 伊豆大会 2005

SADI ニュース
2007年3月15日 SADI組織委員会

第13回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナーの議事録
Proceedings of 13th Seminar on Acari-Diseases Interface 2005 in Izu
SADI ホームページ: <http://sadi.workarea.jp/>

第13回集会 (SADI 伊豆大会) は以下のとおり開催された。

1. 開催要領

ホスト 柳原保武 (前静岡県立大学)
期 日 2005年9月22日(木)~9月24日(土)
会 場 「ベイ・ステージ下田」4階第3会議室
〒415-0015 静岡県下田市外ヶ岡1-1 駐車場は会場1階と屋外駐車場が無料で利用可。
伊豆急下田駅から伊東方面へ車で5分、道の駅「開国下田みなと」に併設された建物
電話: 0558-25-3500, FAX: 0558-25-3501, HP: <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/baystage>
宿 泊 各自手配
費 用 会議参加費は無料 (疫学ツアーはバス代1,000円)
懇親会費: 学生2,000円, 女性3,000円, 他の方は4,000円
企 画 一般演題のほか, 教育講演, そして毎日1回のシンポジウムを設定して多彩な情報交換。

2. プログラム

1日目 9月22日(土)

12:00 4階会場入口にて登録受付
14:30 開会の挨拶 (柳原保武) / オリエンテーション (組織委員会)
14:40 特別講話 司会 柳原保武
「開国の地, 下田の歴史について」 (下田市史編纂委員・文化財保護審議会会長 佐々木忠夫)
15:10 シンポジウムI 基礎の立場から見たダニ媒介感染症の現状 (1) 進行 高田伸弘
1) 世界におけるライム病ボレリアの現状, 国際会議からの話題提供 増澤俊幸 (千葉科学大)
2) つつがむしりケッチアの多様性 - 中国地方の調査から - 田原研司 (島根県保健科研)
3) わが国と東アジアにおける *Babesia* の分布と型別に関する最新の知見 斉藤あつ子 (神戸大)
16:40 休 憩
16:50 一般演題 進行 藤田博己
1. 島根県東部におけるマダニ相と紅斑熱リケッチアの保有状況 田原研司 (島根県保健科研)
2. 福井県初の紅斑熱発生地におけるマダニ相と SFGR の調査 (予報) 石畝 史 (福井県衛環研)
3. *Carios* 属から見出された *Rickettsia* 高野 愛 (日本大)
4. 神奈川県におけるつつがむしり病患者発生状況 (平成14~16年度) 片山 丘 (神奈川衛研)
18:00 会議終了

2日目 9月23日(金)

8:15 疫学ツアー (ベイ・ステージバス駐車場集合, 七滝 (ナナダル), 天城峠方面にてダニ採捕, 昼食は七滝付近の予定)
13:30 教育講演 司会 馬原文彦
「ダニと病理学」 堤 寛 (藤田保健大)
14:20 集合写真撮影 (2階入口前ウッドデッキ)
14:30 シンポジウムII 臨床の立場から見たダニ起因性疾患の現状 進行 岸本寿男
1) 日本紅斑熱 馬原文彦 (馬原医院)
2) ライム病 馬場俊一 (日大病院)
3) 疥 癬 大滝倫子 (九段坂病院)
15:50 休 憩

- 16:00 一般演題 進行 大橋典男
5. 島嶼を含む列島各地における *Borrelia* の調査 - 2004 年の概観 - 高田伸弘 (福井大)
6. ネズミが保有する *B. microti* とは異なるパベシア様原虫 (仮題)
本邦株について: 笠原みどり (神戸大) 中国株について 笠井正俊 (神戸大)
7. *Ehrlichia* sp. Shizuoka 株感染マウスの病理組織学的解析 稲吉 恵 (静岡県環衛科研)
8. 野鼠が保有する *Ehrlichia* 属菌および "*Candidatus* *Neoehrlichia mikurensis*" について
内藤博敬 (静岡県大)
- 17:00 会議終了
- 18:00 懇親会 (ベイ・ステージ下田 2 階特別展示室)

3日目 9月24日(土)

- 9:00 シンポジウム III 基礎の立場から見たダニ媒介性感染症の現状 (2) 進行 吉田芳哉
- 1) 国内に分布するマダニ媒介性リケッチア属-分離成績からの概観 藤田博己 (大原研究所)
- 2) 全国の小動物由来マダニを用いたマダニ媒介性病原体 - *Babesia, Borrelia, Rickettsia, Ehrlichia, Anaplasma* - の疫学調査 猪熊 壽 (帯広畜産大)
- 3) 国内で見出されるエーリキアとバルトネラについて 大橋典男 (静岡県大)
- 10:20 休憩
- 10:30 シンポジウム IV マダニの生物学 進行 川端寛樹
- 1) マダニの微細構造と病原体, とくに唾液腺について 矢野泰弘 (福井大)
- 2) マダニの遺伝学、ゲノム構造について最新の知見 福長将仁 (福山大)
- 3) マダニ成分の吸血源動物への影響 - マダニ唾液腺中の生理活性物質について 伊澤晴彦 (国立感染研)
- 11:50 次期ホスト挨拶, 事務局アナウンスの後、閉会の挨拶 (柳原保武)

3. 登録参加者名簿 2005年9月9日現在

- 馬場俊一 (日大・医)
- 藤田博己 (大原研)
- 福長将仁 (福山大学・薬)
- 古屋由美子 (神奈川県衛研)
- 御供田君代 (鹿児島県環保セ)
- 廣井みどり (静岡県立大; 学生)
- 稲吉 恵 (静岡県立大; 学生)
- 猪熊 壽 (帯畜大・獣)
- 石畝 史 (福井県衛環研)
- 伊澤晴彦 (国立感染研)
- 岩崎博道 (福井大・医)
- 角坂照貴 (愛知医大)
- 片山 丘 (神奈川県)
- 川端寛樹 (国立感染研)
- 川森文彦 (静岡県立大)
- 笠井昌俊 (神戸大・医; 学生)
- 笠原みどり (神戸大・医; 学生)
- 岸本寿男 (国立感染研)
- 北邑かよこ (静岡県立大; 学生)
- 増澤俊幸 (千葉科学大)
- 馬原文彦 (馬原医院)
- 同夫人
- 牧上久仁子 (福島県立医大)
- 内藤博敬 (静岡県立大; 学生)
- 棗田 豊 (万有製薬)
- 小野恵美 (三方原聖隷病院)
- 大橋典男 (静岡県立大)
- 大滝哲也 (東京都)

大滝倫子 (九段坂病院)
小澤 豊 (静岡県立大)
斎藤あつ子 (神戸大・医)
鈴木ちほ (静岡県立大; 学生)
高田伸弘 (福井大・医)
高野 愛 (岐阜大・獣; 学生)
多村 憲 (新潟市)
田原研司 (島根県保環研)
堤 寛 (藤田保衛大・医)
渡邊むつみ (静岡県立大)
山本正悟 (宮崎県衛研)
柳原保武 (静岡県大)
同夫人
矢野泰弘 (福井大・医)
吉田芳哉 (コージンバイオ)

4. 次回開催の予告

ホスト: 猪熊 壽 (帯広畜産大学)

期 日: 2006年6月23日(金)~6月25日(日)

会 場: 平和会館(青森県西目屋村中央公民館 Tel 0172-85-2858) 大研修室

交 通: 下記のいずれかの経路で弘前に着いた後、弘南バス(60分)や車(30分)で西目屋村へ向う

- ・空路は、青森空港、三沢空港、秋田北空港利用で、到着後に連絡バスやJRで弘前へ
- ・鉄道は、東北新幹線なら八戸乗換えで弘前へ、奥羽本線と五能線なら秋田方面から弘前へ
- ・自家用車では、東北自動車道の大鰐ICか黒石ICで下り、バスなら盛岡から弘前へ

案 内: 本年末に、従来の関係者や関連学会また地元関係者へ、SADI ニュースの配布によって案内し、詳細は来春になってから配信ないし郵送する(宿泊施設が少ないためホストが予め確保しておく)。

編集や事務連絡などは下記まで

- ・高田伸弘(福井大学医学部)
〒910 1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3
Tel 0776-61-8330(直)
Fax 0776-52-3133(直)
e-mail *****@*****
- ・藤田博己(大原研究所)
〒960-0195 福島県福島市鎌田字中江 33 大原総合病院内
Tel 024-554-2001(235)
Fax 024-554-2014(代)
e-mail *****@*****

SADI 組織委員会

医ダニ学担当

- ・高田伸弘、矢野康弘(福井大学医学部)
- ・藤田博己(大原研究所)

臨床医学担当

- ・馬原文彦(馬原医院)
〒779-1510 徳島県阿南市新野町信里町 6-1
Tel. 0884-36-3339 Fax. 0884-36-3641
- ・大滝倫子(九段坂病院)
〒102-0074 千代田区九段坂南 2-1-39
Tel. 03-3262-9191 Fax. 03-3264-5397

微生物学担当

- ・岸本寿男(国立感染症研究所)
〒162-8640 東京都新宿区戸山 1-23-1
Tel. 03-5285-1111 Fax. 03-5285-1208

・吉田芳哉 (シマ研究所)
〒174-0063 東京都板橋区前野町 3-6-10
Tel. 03-3966-2283 Fax. 03-6379-1188

後記

今だから申しますが、2003年初夏の軽井沢での開催時に、次回は屋久島ということが決まりましたものの、では次々大会はどこで出来るだろうか、ということが組織委員の間では機会あるたびに話題となっておりました。そんな折、2004年4月に私たちグループが山梨県での野鼠捕獲許可を取る段になって、主たる目的地である八ヶ岳山麓（大泉村）に柳原先生が山荘を構えておられて調査にも協力いただけるという思いもかけない展開になって参りました。やがて6月のある日、八ヶ岳で捕獲した野鼠の処理場所として、何と先生が懇意にしておられる不動産屋さんの事務所2階（大泉駅前）を提供いただけることになり、何とか作業が終わってから遙か静岡県の方向を望む窓辺で先生とお茶をいただきながら「今年9月開催の屋久島は遠い海だけれど、東京にも近い海なら伊豆半島などでも楽しいでしょうね」と申しましたところ、話が妙に進んで先生が主催の可能性を探っていただけることになってしまったのでした。そして、屋久島大会の席で「次回は伊豆でお待ちします」と言っただき、今回、盛会に終わることができました次第です。

なお、ハッピーなハプニングと申しましょうか、先生の閉会のご挨拶の中で、今回の成果を本として刊行したいとのご意向が表されました。それを契機に、組織委員会が協議しました結果、2006年度発足の厚労科研費プロジェクト（SADI関係者の多くが関与）による助成の形で刊行させていただくことに決しました。現在、ほとんどの寄稿がそろい、年度内発刊へ向けて編集作業が進んでおります。思えば、SADI 発足2年目（1994年）にプロシーディングを刊行して以来、干支で言えばちょうど一回り目に再び刊行ということで、ちょっと因縁を感じております。（文責 高田伸弘）